

学力向上フロンティアスクール中間報告書

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	福島県大沼郡会津本郷町立本郷第一小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	19
児童数	59	58	73	75	66	64	4	399	

研究の概要

1. 研究主題

主体的な問題解決による、確かな学力の育成

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

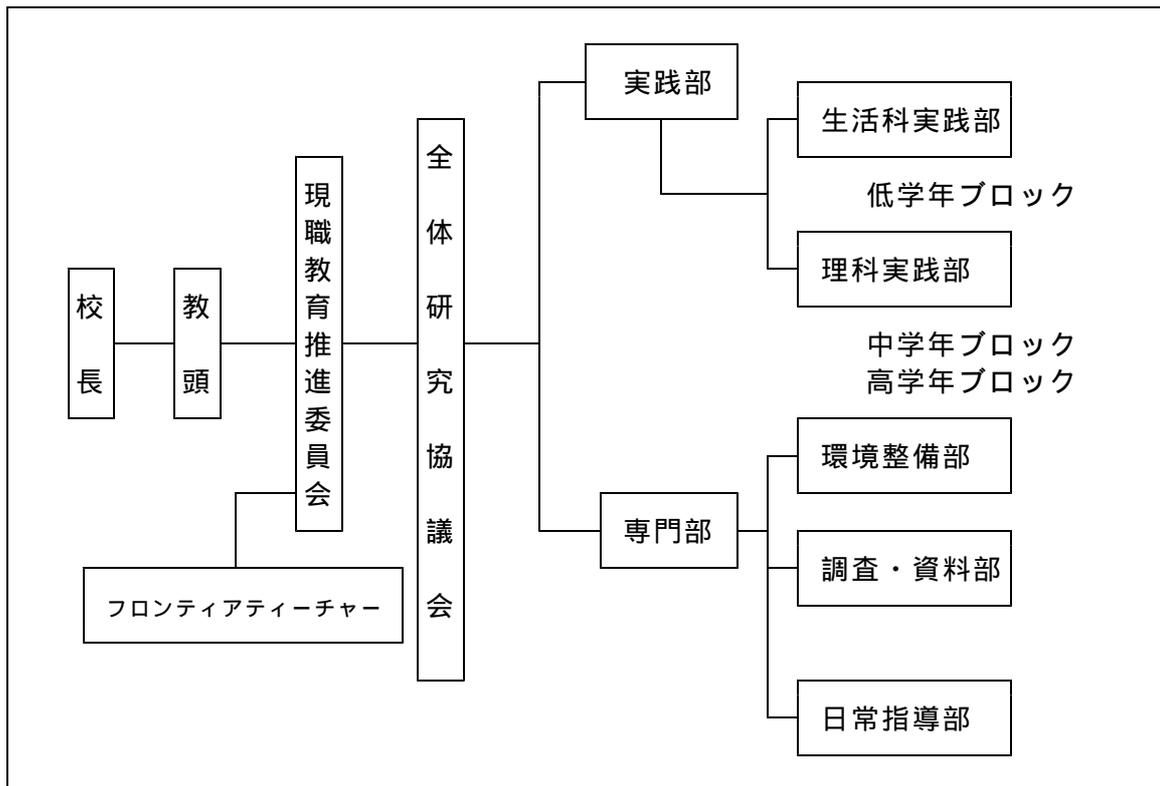
<p>3～6年 理科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校として平成14年度より理科の研究を行ってきた実績があるため。 ・児童個々の考え方を生かした学習が展開しやすく、体験的な学習を保障しながら確かな学力を育成することができる教科であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ「主体的な問題解決活動を引き出す、指導方法・指導体制の工夫改善」</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究主題を「主体的な問題解決活動を通して、自然の不思議を豊かに実感できる理科学習」とし、次の手だてを工夫して主体的な問題解決活動を引き出し、確かな学力の育成を図る。 TT指導や少人数指導による個に応じた展開の工夫 指導と評価の一体化 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> TT指導や少人数指導による個に応じた展開の工夫 ・児童の願いや考えを生かした指導計画の作成 ・TT指導を生かした個の力を引き出す学習の展開 ・少人数指導を生かした多様な学習の展開 ・発展的な学習や補足的な学習の工夫 指導と評価の一体化 ・单元ごとの評価規準、達成基準の作成 ・ノート作りと共感的評価の工夫 ・意識調査による実態と変容の把握
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ「個に応じた学習の深化」 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研究主題を「主体的な問題解決活動を通して、自然の不思議を豊かに実感できる理科学習」とし、次の手だてを工夫して個に応じた学習の深化を図る。 <ul style="list-style-type: none"> 発展的な学習や補充的な学習の工夫 個への関わりを強化する授業の展開 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な学習や補充的な学習の工夫 ・発展的な内容や補充的な内容を取り入れた指導計画作成の工夫 ・発展的な内容や補充的な内容を取り入れた一単位時間の展開の工夫 ・発展的な内容や補充的な内容に対応する教材開発や提示の工夫 ・個への関わりを強化する授業の展開 ・単元ごとの評価規準、達成基準の活用と改善 ・学力テストの分析と個への対策 ・TT指導や少人数指導を生かした学習状況の見取り ・意識調査による実態と変容の把握
--------------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) TT指導や少人数指導による個に応じた展開の工夫について

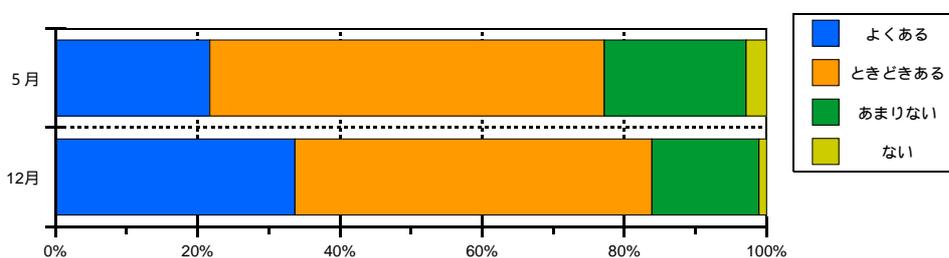
3年以上の全8学級でTT指導による授業を行うことができた。学習内容と児童の実態に応じた課題解決の方法別によるTT、児童個々の学習状況を

よりよく見取るための一斉指導でのTT、特別な実験コーナーを担当するTT等々、TT指導のよさを十分に生かしながら、多様な学習を展開することができた。

単元、または小単元の導入において、自由試行活動を積極的に取り入れたことにより、児童なりの疑問を持たせることができた。その疑問が発展的な学習につながることも多く、少人数学習で追究の場を保障することで主体的に問題を解決しようとする態度が育ってきている。

下のグラフはアンケート調査から、児童の変容をとらえたものである。(対象は3年生以上全児童)「理科の学習で不思議・疑問に思ったことがあるか。」という問いに対して、「よくある」「ときどきある」が平成15年12月では8割を超え、5月と比較して伸びていることが分かる。自分の疑問が学習に取り上げられることで意欲の喚起につながってきたものとする。

理科の学習で不思議・疑問に思ったことがあるか。



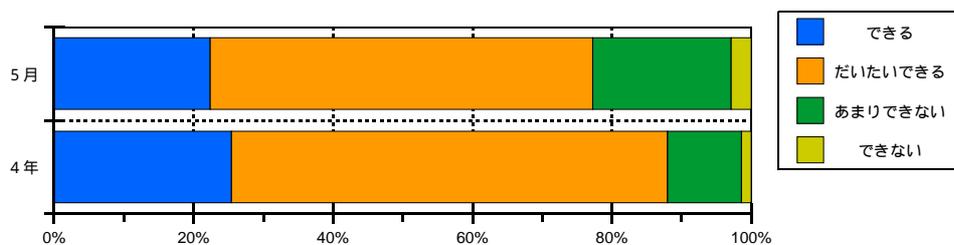
(2) 指導と評価の一体化について

単元ごとの評価規準、達成基準の作成を行い、到達すべき基礎的・基本的内容を明確にした授業を実践することができた。また、発展的な学習の姿をイメージできたことも作成による成果であった。

評価の観点を1時間1観点に絞ったことで、ねらいを明確にした授業創りに結びつけることができた。

共感的な評価により達成感や成就感を高めることを意図したが、その手立ての中心をノート作りに置いた。下のグラフはそのことに関するアンケート結果である。「理科学習の進め方」「理科ノートの書き方」等を全児童に配布し繰り返し繰り返し朱書きのコメントによる称賛や励ましをしてきたことが変容につながっているものとする。

考えや分かったことを分かりやすくノートに書くことができるか。



2. 今後の課題

(1) 評価規準表の有効活用を図る。

今年度の評価の取り組みを反省し、より具体的に児童の姿が見える評価規準にしていく必要がある。そのことがねらいを明確にした授業の実践につながるものとする。

評価規準と発展的な学習、補充的な学習の関わりを明確にしていく必要がある。

(2) 個への関わりをより強化した授業実践を推進する。

教材開発、地域素材や人材開発、理学的環境整備等に力を入れ、教師自身の力量形成を図りながら児童一人一人の思いや願いを大切にしたい授業創りを推進していきたい。

TT指導や少人数指導等、多様な学習活動を保障する指導体制を更に充実させていく。そのことが一人一人の学習を保障することになり、個々の可能性を引き出すことにつながるものとする。

学力等把握のための学校としての取組

理科学習についての意識調査（5月と12月に実施し、変容を把握する）

・意欲や学習の満足度等を調査する。

学力調査（2月に実施）

・NRTで学力を調査する。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究公開

日時：平成15年10月22日（木）8：30～16：30

場所：本郷第一小学校

対象：福島県内の小学校

内容：・全学年の理科の授業を公開し、授業改善について協議を行った。
・福島市教育委員会教育実践センター指導主事熊田晴彦先生を講師に講演会を行った。

（演題：「はてな」（疑問）「なぜ？」（原因）「なるほど」（納得）の楽しみを自然から学ぶ）

研修会

日時：平成16年1月30日（金）15：00～16：45

場所：本郷第一小学校（会議室）

対象：町内の小中学校

内容：講演会

・講師 小荒井 実 先生（NPO法人わかば自然楽校理事長）

・演題 「会津の自然」

研修会

日時：平成16年2月23日（月）14：30～16：45

場所：本郷第一小学校（会議室）

対象：郡内の小中学校

内容：講演会

・講師 戸北 凱惟 先生

・演題 「確かな力を育てる理科学習－発展的な学習をどう展開するか－」

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--------------------------|-------------------|------------|----------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの新規校 | | |
| 【学校規模】 | 6学級以下
13～18学級
25学級 | 7～12学級
19～24学級 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導
一部教科担任制 | T・Tによる指導
その他 | | |
| 【研究教科】 | 国語
生活
体育 | 社会
音楽
その他 | 算数
図画工作 | 理科
家庭 |
| 【指導方法の改善工夫に関わる加配の有無】 | | 有 | 無 | |